八千代市
あの町この町

八千代市立郷土博物館

八千代市 あの町この町

発行日　平成31年3月１０日
発行・編集　八千代市立郷土博物館

文化庁

平成30年度　文化庁　地域の美術館・歴史博物館を中核としたクラスター形成事業

はじめに

八千代市は、約3万年以上前から人々が暮らし、奈良・平安時代に「村神郷、草田、高津」などの地名が見られ、その後も歴史の端々に町の名前が登場する地域です。江戸時代には25ヶ村の村々が存在していましたが、治める領主なども様々で、幕府の直轄地や佐倉藩、長瀞藩などの所領としてありました。明治以降の町の発展に伴い、統廃合を繰り返し、昭和29年に一つの町となり、その後、今の八千代市の姿となりましたが、積み重ねてきた文化や歴史は町それぞれにあります。

これらの、日頃何気なく見てきた文化財や様々なくらしを市民の皆さんに知っていただき、自分が住む町の素晴らしさを感じていただくために、各地区ごとにパネルを作成し、「あの町・この町」として、市内9つの公民館などに展示してご覧いただいてまいりました。しかし、これらをまとめた印刷物を作成しお手元にお届けすることが、様々な町が集まってできあがった八千代市全体の文化や歴史を知っていただける機会になると考え、今年度事業として冊子を作成することといたしました。

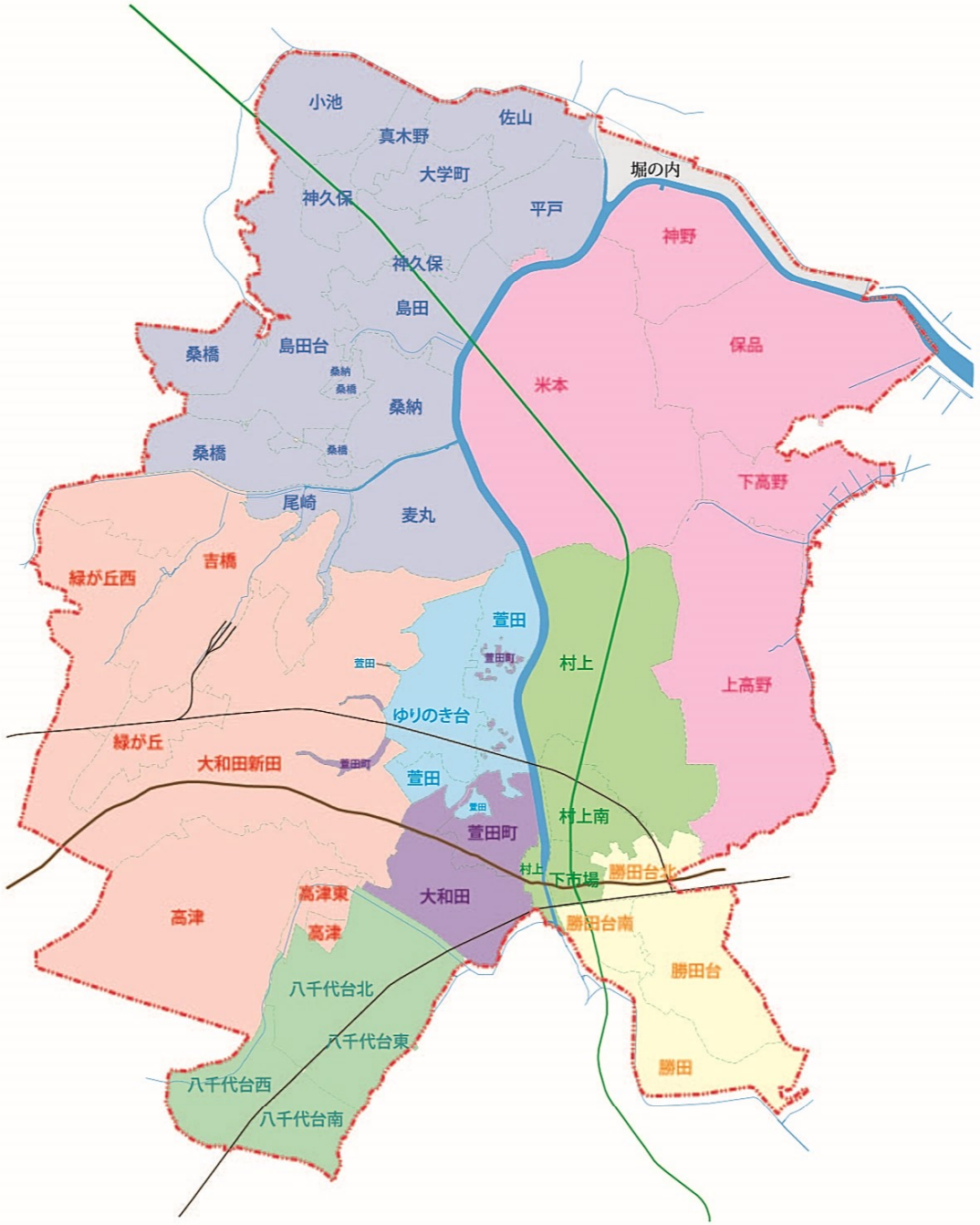
八千代の素晴らしい文化と歴史を理解するお供として、ご活用いただければ幸いです。

平成31年3月10日

八千代市立郷土博物館

目次

村上・下市場 …… P2
米本・神野・保品・上高野・下高野 …… P3
睦地区（吉橋は別地区に掲載） …… P4
大和田・萱田町 …… P5
高津・大和田新田・吉橋・緑が丘 …… P6
八千代台 …… P7
勝田・勝田台 …… P8
萱田・ゆりのき台 …… P9



あの町この町 村上・下市場

八千代市の中央東寄りに位置する村上には、西に新川が流れ、地域を貫くように国道 16 号が走り、村上の南に隣接する下市場で国道 296 号と交差します。村上駅建設前の平成初期までは、一帯に田園風景が広がっていました。

村上は、様々な文化財が残る歴史や文化が豊かな地域です。平安時代に編纂された『和名類聚抄』に、「下総国印幡郡村神郷」とあり、この「村神」が現在の村上であると考えられています。昭和 48 年 (1973) の村上遺跡群の調査により、当時としては貴重な村全体の遺跡が発掘され、その模型が佐倉市の国立歴史民俗博物館に展示されています。

正覚院には、千葉県指定有形文化財 木造釈迦如来立像が安置されている釈迦堂や厨子、宝篋印塔があり、いずれも市指定文化財です。七百餘所神社では、無形民俗文化財 村上の神楽が行われています。その他、市内最大の前方後円墳である根上神社古墳、天然記念物 浅間神社のイヌザクラなどがあり、こちらも市指定文化財です。

あの町この町 米本・神野・保品・上高野・下高野

米本は、八千代市北東部の国道 16 号周辺にあたります。東に隣接する神野・保品・上高野・下高野は、市域の北東端になります。室町時代の文和２年（1353）の文書に「下総国臼井庄星名郷」「神村」が見え、それぞれ保品・神野のことと考えられています。

佐倉藩の百科辞典である『総葉概録』によれば、米本城跡は村上国綱・綱清父子の居城で、永禄元年（1558）綱清が自害し、城は廃されたと伝えられています。

米本長福寺には、綱清の墓石と伝えられる五輪塔があり、市指定民俗文化財です。

下高野には、戦国時代の千葉氏の家臣が土着したと伝えられています。また市内最大のツジギリをはじめ、年間 20 件を超える江戸時代から続く伝統行事が現在も大切に継承されています。

平成９年（1997）には、新川沿いに「道の駅やちよ ふるさとステーション」がオープンし、市内農産物の販売を通して、農業経営者と都市住民がふれあう観光の拠点となっています。

あの町この町 睦地区
（吉橋は別地区にて掲載）

佐山の獅子舞

毎年９月 23 日に熱田神社と妙福寺で行われており、この日は彼岸の中日なので「ヒガンジシ」と呼ばれています。親獅子・中獅子・女獅子の三匹獅子舞で、市指定の無形民俗文化財です。

水難横死供養塔

現在のように新川と花見川が繋がる前は、たびたび水害が起こり、事故死することもありました。このような水害や行き倒れで亡くなった人々への供養碑が市域北部に見られます。

島田谷津

島田と桑納の境にあり、現在も谷津田の景観を見ることができます。浅水生植物のヤマトミクリの県内唯一の生息地です。谷津全体が環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されています。

八千代市北西部は、昭和 29 年 (1954) 1 月まで睦村と呼ばれていました。東には新川、北には神崎川、南には桑納川が流れ、周辺には田園風景が広がっています。国道 16 号と主要地方道船橋･印西線が交差しています。

明治 21 年（1888）の市制・町村制公布に伴い、桑納・麦丸・桑橋・吉橋・島田・神久保・小池・真木野・佐山・平戸の 10 か村と神保新田の一部が合併され千葉郡睦村が成立しました。村名は、各地区の住民が一致共同して親睦を深めるという意味から決定されたものです。現在、睦という地名はありませんが、その名が公民館などの公共施設に残されています。

江戸時代の享保期に平戸村の染谷源右衛門が、印旛沼の洪水による被害を解消するため、現在の新川と花見川を繋げる工事を幕府に願い出たと伝えられ、安永・天明期に島田村の名主信田治郎兵衛らが、幕府に命じられ工事の計画書を提出しましたが、工事は中断されました。

あの町この町 大和田・萱田町

円光院

山号は地蔵山、本尊は不動明王立像で、真言宗豊山派の寺院です。大和田小学校（出戸小学校）の校舎となっていた歴史もあります。

下総三山の七年祭り

数えの七年目ごとに行われる船橋市、八千代市、千葉市、習志野市の４市９社にまたがる壮大な祭りです。八千代市からは大和田･萱田町の時平神社、高津の高津比咩 (たかつひめ) 神社が参加しています。

時平神社

同名の神社が大和田の他に萱田町･萱田･小板橋の計４ヶ所あり、平安時代に権力を握っていた藤原時平公を祀っています。また、高津には時平の娘･高津姫に関する伝説が残され、姫を祀る高津比咩神社があります。

大和田･萱田町は、八千代市南部中央にあたります。古くから栄えた町であり、多くの歴史が残されています。

地区内を通る国道 296 号 は、戦国時代末期までさかのぼる古道で、当初は「さくら道」と呼ばれていました。江戸時代、道沿いの大和田村・萱田町は、船橋と臼井の間をつなぐ馬継場で、旅籠や安価な宿泊施設の木賃宿が並び、後期には成田山詣の人びとが利用するなど、「大和田宿」として賑わい、道の通称も「なりた道」へと変わっていきました。明治天皇のご宿泊に際し、道も整備され、その後成田街道と呼ばれるようになりました。

明治６年 (1873) に出戸小学校（現 大和田小学校）が開校した時には円光院という寺院を校舎としており、八千代で一番歴史のある学校の一つです。大正 15 年 (1926）には、八千代市内で初めて大和田に駅が作られ、人々の暮らしに影響を与えました。

あの町この町 高津・大和田新田・吉橋・緑が丘

貞福寺（じょうふくじ）

新四国八十八ヶ所霊場を巡る吉橋大師講の本寺です。境内には５基の筆子塚があります。筆子塚とは、寺子屋の教え子たち（筆子）が先生への謝恩のために建てた墓や記念碑のことです。江戸時代の住職や明治時代の地元の知識人がムラの子弟育成に貢献したことがわかります。

吉橋城跡

中世・戦国時代の城跡で、地元では香取山（かんどりやま）と呼ばれています。ゲートボール場のある所をⅠ郭（かく）、貞福寺が建っている所をⅡ郭と呼んでいます。周りには堀跡と土塁（どるい）が残っています。

高津のハツカビシャ

毎年１月 20 日に 悪と書かれた的に弓を射る高津のハツカビシャが行われます。ムラの平穏を願う行事と考えられています。市指定の無形民俗文化財です。

高津・大和田新田・吉橋・緑が丘は、八千代市南西部にあり、船橋市と隣接し、西に坪井川、北に桑納川（かんのう）が流れています。東葉高速鉄道八千代緑が丘駅周辺に新しい商業地域と住宅街が連なる一方で、吉橋には農村地帯が見られます。愛宕山貞福寺（あたごじょうふくじ）には本尊（ほんぞん）である血流地蔵尊（ちながれじぞうそん）の伝説が残っています。吉橋城主・高木伊勢守胤貞（たか ぎ いせのかみ たねさだ）が攻め込まれ、倒れてしまいました。家臣が慌てて伊勢守のもとに向かうとそこに姿はなく、伊勢守が信心していた地蔵菩薩が身代わりとなって頭から血を流して倒れていたと伝えられています。

享和（きょうわ）３年 (1803) には血流地蔵をお参りするための道しるべが建てられ、現在も成田街道から吉橋に向かう新木戸の分岐路に残されています。

高津には、藤原時平の娘である高津姫の伝説などが残り、また、平安時代の書物に「高津馬牧（うままき）」とあり、これを八千代市の高津とする説があります。

あの町この町 八千代台

八千代台小学校

昭和 32 年（1957）に開校しました。このときの校舎は手前に見えるプレハブのものでした。奥に広がるのは林で、そのすぐ手前には八千代台駅が見えます。

諏訪神社

毎年２月 11 日に市指定無形民俗文化財である「高津新田のカラスビシャ」が行われています。的にはカラスが描かれています。

住宅団地発祥の地の碑

昭和 30 年 (1955) に千葉県住宅協会によって全国初の住宅団地として誕生したのが八千代台団地です。昭和 40 年 (1965) に八千代台駅西口に設置されました。

八千代台は、八千代市域の南西部、千葉市・習志野市と隣接する地域です。八千代台は、もともと高津新田と呼ばれる地域でした。高津新田は、江戸時代の新田開発により新たに作られ、高津村に隣接していたことから名付けられました。市制施行後の昭和 47 年頃までには、高津新田全域が八千代台東・西・南・北の住宅表示となり、高津新田という大字名（おおあざめい）は消えてしまいました。現在は高津新田公会堂やバス停留所などに高津新田の名が残されています。

昭和 30 年に全国初の住宅団地が完成した八千代台には、昭和 31 年 (1956) 3 月に八千代台駅が開業したことで人口が増え、その後も八千代台東団地や八千代台西団地が建設され、首都圏に通勤するサラリーマンの町として発展しました。現在、東口の「エポラ通り歩行者天国」、「西口夏祭り」が開催されるなど、八千代台は駅を中心に発展を続けています。

あの町この町 勝田・勝田台

勝田・勝田台は、八千代市南東部の京成線及び国道 296 号以南の地域です。
千葉市との境には勝田川が流れ、弁天橋の北側で花見川に合流しています。
勝田市民の森として整備された公園には、地元の人たちから「仲山大塚（なかやまおおつか）」と呼ばれてきた古墳が２基残されており、ともに高さ約２m、直径約 20 m の丸い古墳です。1400 年前ごろのものと思われます。
勝田の獅子舞が行われる駒形神社は、勝田の鎮守・産土（うぶすな）（村を守ってくれる神様）と呼ばれています。獅子舞のもう一つの舞台となる円福寺は勝田地区のほぼ中央にあり、住民が集まりやすく、子どもたちの遊び場ともなっていて、地区の中心的機能を果たしてきました。
三匹獅子舞は、関東から東北まで広く分布し、かつては市内 10 地区で行われていましたが、現在も受け継がれているのは勝田と佐山の２地区だけです。

あの町この町 萱田・ゆりのき台

萱田・ゆりのき台は、八千代市の中央にあります。北には桑納（かんのう）川、東には新川が流れ、西には大和田新田、中央を首都圏への動脈である東葉高速鉄道が走り、新しい街並みが広がっています。
ゆりのき台の名前は中心道路の街路樹にユリノキを植えたことに由来し、その中心道路には「ゆりのき通り」という名前がつけられました。
宅地化が進む一方で、太田道灌にまつわる伝説や三十三年大祭、５件の市指定文化財がある飯綱神社など、様々な有形無形の文化財が残っています。
開発に伴い遺跡群が見つかるなど、新川西岸に古くから栄えた地域だということがわかります。萱田の白幡前（しらはたまえ）遺跡から出土した平安時代初期と考えられる須恵器（すえき）には、墨で「草田」と書かれていました。「草田」は「かやた」と読めることから、現在の「萱田」の地名に繋がるものと考えられています。